「科学技術の智プロジェクト NEXT」第3回ワークショップのご案内

平素より、「科学技術の智プロジェクト NEXT」にご理解、ご協力を賜り、誠に有難うございます。

2008年に旧科学技術の智プロジェクト報告書が公刊されて以降、有志の方々による様々な取り組み、国立研究開発法人科学技術振興機構科学コミュニケーションセンターにおける調査研究を経て、4年前に「科学技術の智プロジェクト NEXT」が立ち上がりました。現在は科学研究費助成事業により小規模ながら活動を継続しております。

その活動の一環として、2016年度から3回シリーズのワークショップを企画、実施しております。一昨年度は「科学リテラシーを妄想する」と題して科学リテラシーそのものを問い直し、昨年度は「科学リテラシーを構想する」と題して具体的な在り方を探ることを試みました。3回目となる今年度は、「科学リテラシーを実装する」をテーマに開催致します。今回は、広く科学に関する智の共有を行うためのプラットフォームとして、任意団体『科学技術の智ラボラトリ』（代表：北原和夫）を2018年9月に立ち上げたことに伴い（http://literacy.scri.co.jp）、ここを焦点としながら科学リテラシーの「実装」を可能にするような方途を具体的に見出していきたいと思います。つきましては、是非今回のワークショップに日頃みなさまが取り組んでおられる実践を持ち寄って頂き、今後の科学リテラシー実践の新たな可能性を共に考えていければと思っております。

みなさまのご参加を心よりお待ち申し上げております。

科学技術の智プロジェクトNEXT一同

記

・日時： 2019 年2月9日(土)　ワークショップ　14時〜17時

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　懇親会 17時〜19時　ワークショップと同会場にて

・場所：**前回及び前々回とは会場が異なります。**

TIME SPACE渋谷

〒1500042　東京都渋谷区宇田川町17-2伸工ビル

宇田川交番の少し手前で、渋谷駅から徒歩5分

https://www.spacemarket.com/spaces/-1mlmpaVvsb7aSVs/rooms/gD3xlktwOLpy5zhy

・参加費：　ワークショップ　無料

　　　　　　　懇親会　2000円

・概要： １．ふりかえりと提案（90分）

２．科学技術の智ラボラトリ」との企画共創ワークショップ（90分）

詳細は1月9日以降に随時http://literacy.scri.co.jpにアップしていく予定です。

・対象者： 旧科学技術の智プロジェクトメンバー

科学技術の智プロジェクトNEXTメンバー

科学技術の智に関心がある方

・申込方法： 下記のサイトから、2月5日（火）正午までにお申し込みください。

<http://bit.ly/2SaPMN7>

・事務局： 科学コミュニケーション研究所（サクリ）

〒232-0006

神奈川県横浜市南区南太田1-11-13ライオンズプラザ南太田417

contact@scri.co.jp

045-517-4090

http://scri.co.jp

以上

（参考）旧科学技術の智プロジェクトの2008年以降の活動

2009年度から2011年度にかけては、科学技術リテラシーに関する雑誌紹介や学会発表等の継続活動、日本科学技術振興財団との協働（新技術振興渡辺記念会助成）による「小学校教員の科学技術リテラシーの修得・リフレッシュの実態調査」、小学校教員による「科学技術の智プロジェクト」の各専門部会報告書の評価の取りまとめ、などを行ってきました。

参考：<http://www.jst.go.jp/csc/science4All/>

2012年度から2015年度にかけては、科学技術振興機構・科学コミュニケーションセンターの「科学技術リテラシーに関する課題研究」（星元紀ほか：元生命科学専門部会長）として研究を続けてきました。そこでは「科学技術の智プロジェクト」の提言に基づく科学技術リテラシー向上のための施策の成果が十分ではないという認識のもとで考察を行い、それについての知見とそれに基づく提案として、『科学技術リテラシーに関する課題研究報告書　改訂版』（2015年、科学技術振興機構）を公表しました。

　参考：http://www.jst.go.jp/csc/archive/literacy.html

なお、この時期に、旧科学技術の智プロジェクトの報告書等の文書資料を、科学技術振興機構の「アーカイブ」に登録させていただき、現在でも、誰でも閲覧できるようになっております。

2015年度からは、これまでの研究を継続・発展させるということで、放送大学の奈良由美子が中心になって「科学技術の智プロジェクトNEXT」を始めました。また、2016年度からは3年計画で次の目的で日本学術振興会・科学研究費補助金によって、研究を行っております（研究代表者名：放送大学　大橋理枝）。

１．現代の日本社会が直面する、科学に関わる重要でトレードオフ的な判断が求められる課題についての対話を行うために必要な分野横断的な科学リテラシーの概念を構築し、その具体的内容を明らかにする。

２．現代の日本社会における科学リテラシーとはどのようなものか、科学リテラシーの主体は誰か、科学リテラシーの涵養の手立ては何かなど、科学リテラシーについて様々な立場から多角的に議論できるプラットフォームを形成する。

「科学技術の智プロジェクトNEXT」には、旧科学技術の智プロジェクトより、北原和夫（旧委員長）、星元紀（旧生命科学専門部会長）、千葉和義（旧生命科学専門部会）、長崎栄三（旧事務局長）が参加しております。そして、新たなメンバーとして、次の方が参加しております。奈良由美子（放送大学：リスク論、新代表）、大橋理枝（放送大学：コミュニケーション論、新事務局長）、工藤充（大阪大学：科学技術社会論）、石川知宏（科学技術振興機構：科学コミュニケーション）、白根純人（科学コミュニケーション研究所：科学コミュニケーション）、天元志保（知識流動システム研究所：科学コミュニケーション）。

「科学技術の智プロジェクトNEXT」では、先に述べました科研の目的（１．分野横断的な科学技術リテラシーの概念および具体的内容の明確化、２．科学技術リテラシーについて様々な立場から多角的に議論できるプラットフォームの構築）に加え、３．科学技術リテラシーを現場につなぐ手法の明確化および実践、４．「科学技術の智」の改訂も視野に入れながら、活動を展開しております。活動の根底には、旧科学技術の智プロジェクトでも掲げられていた、「21世紀を心豊かに生きるにあたり、『持続可能な民主的社会』を構築するために万人が共有してほしい科学技術リテラシーの向上を2030年までに図る」との方向性があります。

以上